

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立西与賀小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【学力の向上】ドリルやプリント、タブレットPCを活用し、個人に合った苦手分野を克服することで、学習の知識・技能面を向上させる。</li> <li>・【心の教育】定期的に児童の気持ちの状態を把握し、いじめの早期発見、早期対応に向けて迅速に取り組むことができた。今後も、相手意識をもった思いやりのある言動で、他者につながる力の育成を図る。</li> <li>・【健康・体づくり】生活パワーアップ週間を活用し、正しい生活習慣を身に付けさせる。よりよい生活につながる自己調整力を継続して育成する。</li> </ul>
2 学校教育目標	元気いっぱい、自分から学び、共に高め合う西与賀っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>【心育で】居心地の良い教室(挨拶・掃除・言葉遣い)</li> <li>【学び】自分で・みんなで考え、達成感を味わえる学びづくり</li> <li>【体づくり】規則正しい生活と運動</li> <li>【教職員】業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○学習課題と振り返りを重視し、表現力を高める授業の工夫	○「できるようになること」を理解して学習に取り組んでいる児童75%以上 ○「振り返りが自分の学びに生かされている」と感じる児童75% ○「自分の思いや考えを伝えることができる」と回答した児童75%以上 ○一人一台端末を活用した授業を実践した教師80%以上	・国語・算数を中心に学習課題と振り返りを取り入れた単元づくりに取り組む。 ・校内研究の内容に沿って職員は授業公開を一人一回以上実施し、互いの授業を見合うことで授業力向上に努める。 ・ICT利活用の校内研修会を年3回以上行う。					・学び部 ・学力向上対策コーディネーター ・教育情報化推進リーダー
	○主体的に家庭学習に取り組む態度の醸成	○家庭学習の習慣化ができていない児童70%以上 ○学習用具の準備ができていない児童85%以上	・毎週末、家庭学習で自主学習に取り組ませる。内容の良いものを提示したり、児童に紹介したりしてともに学びを高める環境づくりをする。 ・各学年に目安となる家庭学習の時間(低30分 中45分 高60分)を示し、アンケートで確認して改善を図る。 ・ドリル学習や探求学習など、一人一台端末を活用した課題を出す。					・学び部 ・学力向上対策コーディネーター ・教育情報化推進リーダー
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校は子どもたちに人権意識や思いやりの心を育てているか」と回答した保護者90%以上	・家話を活用した「おうちde道徳」の取り組みで、児童の心の成長に目を向けてもらう機会を設ける。 ・フリートークや授業参観の際に、内容項目「親切・思いやり」「友情・信頼」など【B】として人とのかかわりに関することに関わって道徳の授業を公開する。					・心育部 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当
	○「進んであいさつをしている」「友達に優しくしている」と回答した児童90%以上		・学期はじめの生活目標を「あいさつ」に絞り、各学年の具体的な取り組みを児童と話し、実践しようとする意欲につなげる。 ・学年目標や学級づくりのめあてに、友達のかかわりに関する目標を入れ、児童の意識を高める。					・心育部 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止のための取り組みができていない」と回答した教員95%以上	・毎月1回保護者向けの「いじめのちのちのアンケート」を実施、児童向けに「おしえてねアンケート」を実施し、児童の気持ちの状態把握に努める。 ・いじめ未対応(ゼロ)にするため、アンケート等に記入があった場合は、その日のうちに学年主任が管理職等に報告し対応する。 ・定期的に教育相談協議会などで、支援が必要な児童について学校全体で情報交換を行い、共通理解を図る。					・心育部 ・生徒指導担当 ・教育相談担当
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康によい食生活をしている」児童生徒85%以上 ○「早寝、朝ごはんを食べる」ができた児童75%以上	・保健や学活の時間に栄養職員と連携した学習を行うことで、児童への啓発を図る。給食便りで保護者への啓発を図る。 ・生活パワーアップの集計結果に合わせて、保護者への啓発を図る。					・体づくり部 ・保健主事 ・学校栄養職員 ・食教育担当
	①望ましい生活習慣の形成 ②安全に関する資質・能力の育成	①徒歩で登校する児童80%以上 ②ヘルメットを着用している児童100%	・保健や学活の時間に養護教諭と連携した学習を行うことで、児童への啓発を図る。保健便りで保護者への啓発を図る。 ・委員会活動を通じて、体力向上を図るイベントや説明を行い、体を動かすことの良さを啓発を図る。 ・生活パワーアップの集計結果に合わせて、保護者への啓発を図る。 ・交通安全集会、交通安全教室、帰りの整いの唱和に取り組む、交通安全の意識を高めさせる。また、PTAの交通安全教室への参加を奨励する。					・体づくり部 ・保健主事 ・養護教諭 ・安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・個々の職員が業績評価に時間外勤務削減の方策や計画的な休暇取得について記述する。 ・定時退勤日を徹底する(毎週金曜日+1日)。 ・長期休業中の研修等をまとめて行い、1日休暇を取得しやすくする。 ・会議や研修等のタイムマネジメントに努める。					・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・必要に応じてケース会議を開催し、関係者間での情報共有を行う。					・特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志と誇りを高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力し、進んで地域に関わろうとする気持ちを高める教育活動	◎地域の行事等に1回以上参加した児童70%以上	・公民館と連携し、児童が地域の行事に参加しやすい環境を整える。					・管理職 ・コミュニティスクール担当 ・キャリア教育担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--